

臨床福祉専門学校
理学療法学科 学校関係者評価報告書

1. 委員会

① 日時：平成 26 年 2 月 4 日（火） 20：00～21：00

② 場所：臨床福祉専門学校 3F 会議室

③ 出席委員及び所属

中村 岳雪（東京都理学療法士協会理事 「田無病院副診療部長」）

下河辺 雅也（山田記念病院リハビリテーション科技師長、理学療法学科卒業生）

内野 滋雄（事務局 「校長」）

石垣 栄司（事務局 「理学療法学科長」）

神田 太郎（事務局 「理学療法学科副学科」）

萬崎 保志（事務局 「事務次長」）

金子 学（事務局 「学務係長」）

樋口 豊朗（事務局 「教務主任」）

2. 議事要約

1) 学校関係者評価に関する説明

改めて、学校関係者評価のサイクルを資料に基づき説明。（事務局）

2) 学校関係者評価の議事要旨

[継続審議事項であった、「学科間交流」を目的とした取り組みについて]

■例年、理学療法学科を中心に企画していた「スポーツ大会」について、昨年 12 月の委員会以降、学科長会議で全学科参加での開催を検討したものの、学科毎の授業暦が異なることから、26 年度は理学療法学科＋柔道整復学科の合同開催に留まる見込み。（事務局）

→授業暦が異なるとは具体的にどのようなことか。（委員）

→半期 15 週と 20 週の違い、また学科によって月曜日をハッピーマンデー対策として一律休校日にしていたりと違いがある（事務局）

■前回ご提案を頂いた全学科合同の特別講義については、26 年度は「SNS の使用に関するネットマナーに関する特別講座」を企画することを既に学科長会議で決定したのでその準備を進めている。対象は 1 年生。定期試験の前、6 月の開講へ向けて講師の選定中。

（事務局）

→ラインやフェイスブック等の使用方法を誤ると一生の問題になりかねないので、学校として強く必要性を感じているとの意見が学科長会議でも出された。（事務局）

→実現すれば非常に有効な取り組みと評価できる。（委員）

■前回は指摘できなかったが、外部委員の目から見て、『自己評価報告書』の記述に学校独自の専門用語が多すぎて、内容の理解を妨げている。学校関係者評価の実施体制について、再考を頂きたい。 (委員)

→基準9 (法令などの遵守) に関する評価・意見として受け止める。 (事務局)

→次年度の自己評価報告書の作成及び、それに伴う学校関係者評価の実施方法などについて、早急に改善策を講じる。 (事務局)

3. 学校関係者評価結果の今後の活用

- ① 前回の本委員会での評価を受け、ネットマナーに関する特別講義を全学科合同で実施することを学科長会議にて決定した。実施時期は6月を想定、講師は関連校の日本児童教育専門学校にて同種の講座を開講した際に講師を務めて頂いた方に打診する。
- ② 第二回委員会における新たな意見として、『自己評価報告書』の記述方法に対し、内容が理解しにくいとの評価を頂いた。これに対しては、表現が難解だった箇所を3月末までに本校事務局までお知らせ頂き、その指摘内容を平成25年度の自己評価報告書の作成に反映させる。

4. 総括

前項の②にてふれたとおり、第二回委員会でも新たな評価を追加意見で頂くなど、学校関係者評価について委員の積極的な協力体制が出来つつある。

特別講義の実施へ向けて準備は具体的に進んでおり、これが実現すれば、今後の様々な特別講義の開講への足掛かりとなり、同じ場で同じ授業を受講した複数学科間の学生交流が生まれることを期待する。

以上